

と語っていた。インタビューした人の中で最も若く、出産年齢も19歳と早かったクリスティンは、自分にはこれという職業はないし、上の子どもが心臓の障害を持っており、今後何度か予定している手術の際、病院への付き添いや特別なケアが必要であることも関連しているようであった。

このように、彼女たちは、それぞれの主義や事情があつて、現在就労していない。

(5) まとめ

インタビューした20人のうち、ずっとフルタイムでやってきた女性は3人であるが、男性の方は、ほとんどがフルタイムを保っており、いわゆる女性が子どもがうまれることによって生活を変えているカップルが多いことがあきらかである。

しかし、労働市場や教育機関への出入りがかなり活発で、一度は中断したり労働時間を短くしていても、出産前からある程度の継続性が保たれている。また、出産後、大学などに行き、資格を取ってそれまでとは別の新しい職につくことが可能である。パートタイムからフルタイム、フルタイムからパートタイムの移行が比較的しやすく、職探しも時期に限らず、いつでもできること女性にとって、職を得やすくなっているようである。

出産後の休業については、FMLAの制度により法的に権利のある12週間までを最大限に取っている人は少なく、たいていの場合が8週間であった。また1993年にこの法律が通る前も、同様に休みをとっていた人が多いことは、他の統計的なデータで見られるパターンと同じであった。その場合も、年休をためておいて出産のときに取ったり、また夏休みのある職業の場合はそれに合わせて出産している人もいる。12週間までの無給休業を取れるという制度は、アメリカの制度改正の面では第一歩に過ぎず、有給の休業が取れるようになれば、かなりの違いが出てくるのではないかと考えられる。

また、出産後にパートタイムの契約に移行したり、特別に休業期間を延長してもらうのは、それぞれの職場で「制度」として確立しているわけではなく、そのときのボスとの交渉によって行われている場合が多い。「自分はラッキーであり、職場の上司に恵まれたから、同僚の理解があつたからやってこられた、という声が多くの人から聞かれた。

昇格などの面でも、パートとしてやって行っても、そのためにずっとフルタイムであった人に比べれば遅いのかもしれないが、ディレクターなどのポジションについている人もいる。

ファミリーフレンドリーな職場、ということが日本の政策提言でも唱えられるようになったが、アメリカでは80年代後半から研究がすすめられ、近年でもその実態を調査する研究が行われている。企業のケーススタディ (Hochschild, 1997) では、制度的には育児休業が取れたりフレックスタイムにすることができる職場でも、雇用される側も雇用している側も、意識の上で男性は育児休業は取るべきでない、女性もなるべく取らない方がいい、という考えを持っている人が多く、実際にはあまりうまく機能していないことなどが

述べられている。

アメリカのように国レベルの制度が整備されていないが、個別対応が可能で多くの人がやっている国の状況を理解するためには、今後の研究として、家族と職場の関連の研究をレビューし、現状や問題点を整理していく必要がある。それが日本においても、育児を支援する職場環境をつくり、個々人や雇用主の意識の改革の方向性を見いだす参考になる。

(6) プロフィール (仕事と出産歴)

5 ワンダ 40歳 子ども現在1人 (4歳)

4度目の結婚、36歳の時に初めて出産したが、25歳の時から勤めている工場でカスタマーサービスの職員として今もずっとはたらいっている。出産後の休暇は8週間とった。
<産休以外、ずっとフルタイム>

18 ゲイル 29歳 子ども2人 (9歳、2歳)

コミュニティカレッジでいくつかの授業を取った後、大学のいくつかの部署で事務的な仕事をする。ほとんどの時はフルタイムだった。出産後、7週間休み、元いた部署でフルタイム。第2子出産後、12週間休み、その後は同じ部署でフルタイムで働く。
<フルタイム、第1子出産後7週間休。フルタイム。第2子出産後12週間休。フルタイム>

8 ドナ (37歳、3歳の子ども1人)

結婚前から病院で研究関係の職についている。夫がラファイエットに転勤になった際も、専門を生かした職を前もって見つけてから移ってきた。34歳で出産後、6週の産休をとり、パートで同じポジションに戻った。もっと長い間パートでいたかったが、研究グラントが取れた関係で、フルタイムに戻ったという。今度出産するときには、少なくとも12週間は休暇を取りたいと思っている。自分には専業主婦は向かず、仕事をしていたい、とのことだ。

<フルタイム、6週の産休、一時8ヶ月間パート、フルタイム>

一時休職あるいはパート、現在フルタイム：

2 ジャネット 42歳 (子ども5人)

第1子出産後は、フルタイムに戻り、第2子から第5子が3歳になるまでの14年間は、パートタイムでやってきた。数年前、その部署のディレクターに昇格し、フルタイムになる。1人目のときは、夏休みを利用して、休暇をとった。

<フルタイム、14年間パート、またフルタイム>

9 クリステーン 37歳、子ども4人(11, 10, 7, 5) 看護婦

看護婦をしていたが、第1子出産後、仕事は辞め、2年間以上家にいた。第2子出産した1年後、別の病院の看護婦としてフルタイムで勤める。1年後、職場をかえ、パートタイムに。第3子出産後は、元のパートタイムに戻る。第3子5歳になったところで、別の病院でフルタイムで働く。第4子を37歳で産み、6週間の産休のあとは、フルタイムに戻る。夫が大学院に行くことになったこともあり、自分がフルタイムで働く必要がある。

<第1子出産後、2年以上就労せず。その後、パートタイム。第3子出産後も同じパートタイム。第3子5歳でフルタイム。第4子出産後、6週間産休、フルタイム。>

13 ケアレン 32歳 子ども1人(3歳)

シェフの資格をもち、結婚後にインターン。フルタイムの職を得る。第一子出産までフルタイム。1年3ヶ月後、夫とレストランを開店し、フルタイムに。

<フルタイム、15ヶ月休み、フルタイム(自営)>

フルタイム：出産後、現在の職についての人：

6 カーラ (39歳、子ども3人、今家にいるのが1人で3歳)

前の結婚のときは、高校在籍中に出産し、卒業後ははたらかなかった。20歳で2人目を産んだ。下の子が6歳になり、病院で補助看護婦をした。下の子が9歳、本人は29歳で離婚した。のち、いくつかパートを掛けもちした。コミュニティーカレッジにも通った。33歳で再婚、35歳からフルタイムでアルコール中毒患者のリハビリ施設ではたらく。36歳で出産し、もとの職に戻る。6週間産休を取る。2年前からは、同じ職場の別の部署でフルタイムではたらいている。

<家にいる。2人目が6歳で勤め始める。離婚後、いくつかパートを掛け持ちし、コミュニティーカレッジに通う。再婚し、フルタイムで働く。出産、6週間産休、元の職場でフルタイム。>

12 クリス 32歳 (子ども2人、10歳、6歳)

18歳で結婚、ベイカリーで働く。22歳で出産。未熟児だったため、一年間家にいる。2歳になってから、看護学を学ぶ。働きながら、看護学を学び、26歳で看護婦になり、フルタイムでつとめる。第2子妊娠中、4ヶ月休み、出産後、2ヶ月休む。のち、フルタイム、ときにはパートタイムでつとめる。正看護婦の資格取得のため、パートタイムで学校にも行く。末子が6歳で、フルタイムの正看護婦としてつとめる。

<出産前は、別の職業に。第1子出産後、1年間就労せず。のち、学校に。子どもが4歳でフルタイム看護婦。2人目出産、2ヶ月やすみ、フルタイムとパートどちらかで働く。末子6歳からフルタイム>

現在パートタイムの人：

3 ナンシー 41歳、子ども4人（16歳双子、13、9歳）

1983年26歳のときに双子を出産し、その後2年間は働かなかった。子どもが2歳になってから、自分の家で、獣医としてはたらくようになった。第3子を養子にしてからも、同様に自宅で獣医業を営む。第4子を33歳のときに養子に取ったと、3年間は就労しなかった。そのころから子どものために、自主学校をはじめ。末子が3歳、本人が36歳のときから、クリニックにパートで獣医をしている。自分で自宅学校をやっているし、コミュニティサービス活動、養子の子供達の会などにもエネルギーを注いでいるので、パートタイム勤務でも時間が足りないくらいだと考える。

<フルタイム、出産後2年間休み。自宅で獣医業を5年間。第4子を養子にした後、3年間休み。後、パートで獣医。>

7 ケアレン(A)、38歳、子ども（13、9、6、3、4ヶ月の5人）

大学在籍中に結婚、出産をし、出産の6ヶ月後にはナーサリーの先生になった。第2子出産後も、それを続けた。4年間続けたその職の延長ということで、30歳で大学院に行くことにした。32歳で3にん目を出産し、大学はそのままつづけ、33歳で修士をとった。以後、大学で教育実習生の指導を75%勤務をしている。35歳で、第4子、37歳の時は、夫が自営業を始め、それも手伝いながら、75%勤務をし、38歳、1999年に第5子を産んだ。5人の子どもをかかえて、フルタイムになるというのは選択肢にはないようである。また、経済的なこともあって、自分が勤めを辞めることは考えられないと言う感じであった。5人目は予期せずに産まれてしまい、インタビューしたころは、一番大変なときでもあった。

10 ホーリー 37歳、子ども1人（2歳）

結婚後、フルタイムで勤める。35歳で出産後、3ヶ月の休暇を取る。やめたかったが、職場のほうから、休暇の延長するという条件がだされ、出産11ヶ月後、パートタイムで元のポジションに戻り、週10時間はたらく。出産14ヶ月後は、20時間に増やす。
<フルタイム、出産後11ヶ月休暇、パートタイム>

11 アン 37歳 子ども2人（7歳、5歳）

結婚後はフルタイムではたらし、30歳で第1子出産後、8週間休み、パートにかわる。32歳で第2子出産後、パートにもどる。時間の長いセールスの職に変わる。時間は短いですが、自分のセールス成績を重視してもらい、扱いはフルタイム同様である。36歳で今のところに越し、3ヶ月ははたらかなかつたり、スーパーでパートで働くなどをしてきた。37歳からカーディーラーでパートで6時間半働いている。。

<フルタイム、出産、パートタイム、出産、パートタイム。パートだが、フルタイム扱いを受けている>

15 エリザベス 31歳 (子ども2人、5歳、2歳)

22歳で結婚。大学の事務職、25歳で出産、産前6週間、産後6週間休み、週30時間勤務に。第2子出産後、2年間家にいた後、もとの部署に週20時間就労。(パートであるが、20時間以上からベネフィットなどがある。)

<フルタイム、出産12週間休み、パート。第2子出産、2年間休み、パート。>

パートタイム：出産後、違う職種：

* # 14 ティナ 30歳 (7歳、4歳、1歳8ヶ月)

結婚後、個人契約で、助産婦補助をしていた。第1子、2子出産後も続ける。定期的ではない働き方。離婚後、自営経営学校でコディネーター。第3子出産後も、同様。

<個人契約でパートタイム。現在は、全く違う職で、パートタイム。ジョブシェアリングをしている。>

フルタイムの学生

17 ジェシカ 29歳 子ども2人 (9歳、2歳)

大学生のときに結婚、出産する。卒業後(子ども2歳)小学校の先生に。27歳で第2子を出産し家にいる。子どもが1歳8ヶ月のとき、ここに引っ越してきたのをきっかけに、大学院に入る。

19 ニッキ 25歳 子ども1人 (5歳)

16歳からデパートに勤める。20歳で出産、6週間産休をとり、フルタイムに戻る。離婚を機に、大学に入る。2年間はパートタイム学生、24歳のときからフルタイムに。

現在専業主婦

1 キム 46歳 (子ども12歳と10歳)

これまで働いた経験は、結婚前、友人達と輸入業に携わったこと、第2子が7歳になってから2、3年本屋で働いた、というものである。子どものために、いてあげることが親としての責任で、安心して預けたいと思える環境はない、と思ったとのことである。働くことは好きであるが、お金のために、ということがあまり好きでなく、ボランティアなどには積極的である。彼女が勤めを持たない、というのは、勤めたいが、それを妨げるような障害にぶつかったというのではなく、内面化されたものも含め、自分は子育てに専念し、その上で、他のことをしたいという感じであった。

#4 ステファニー 41歳 (子ども15歳、11歳)

出産を機に、3年間勤めたプリスクールをやめた。それ以来、11年間勤めなかった。末子が7歳のとき、大学で教育関係の授業をいくつかとった。今は、主として専業主婦であるが、息子の学校に代休の先生としていたりする。子どもは自分たちで育てたい、という方針を持っている。息子の学校に代休の先生として行くのも、子どもが勉強している環境を詳しく知りたいという気持ちからくるもので、そこでの活動は自分のキャリアのためというよりも、子どもと過ごす時間の一環として考えている。

#16 ブランディー 30歳、子ども4人 (三つ子5歳、3歳)

19歳で結婚し、薬局でパートタイムで働く。22歳からフルタイムで夫のビジネスをやる。25歳で三つ子出産後、家にいる。3ヶ月後から、週3時間夫の仕事手伝う。第4子出産後も、同様。夫のビジネスがなくなったので、今は家にいる。最近、家でできるコンピューターの仕事を週6時間くらいやっている。基本的には、「家にいる母親」というアイデンティティを持っている。

#20 クリステイン 21歳 子ども2人 (2歳、1歳)

出産までは、看護婦補助や製造工場でフルタイムで働く。その後、家にいる。2人目の妊娠中、写真現像ショップで働く、出産後は家にいる。

働くのも嫌いではないが、今はメキシコ人の夫がレストランで働く給料で、なんとか「古いけれど」家も買えたし、特に必要だとは思っていない様子であった。印象では、子育てのためにやめた、というより、必要ないから、という感じであった。

<インタビュー協力者の仕事、出産、保育施設の利用一覧>

5 ワンダ 1959年生まれ40歳 子ども(夫の前の結婚で21、16、14)今の(4度目)結婚で1人(4歳)

	仕事の状況	保育など
1977-1980 結婚1 1982-1983 結婚2 1984(25)	製造工場フルタイム、カスタマーサービス	
1984-1992 結婚3		
1993(34)結婚4 1995(36) 第1子出産	出産1週間前まで働く 出産後8週間の休暇 もとの職に戻る。(7時半から4時半、場合によっては6時半まで。週末出勤のときもある。)	ベビーシッター 現在は家庭保育所 どちらも週末出勤のときは彼女の義理の娘、姉、母がみる。

18 ゲイル 1970年生まれ 29歳 子ども2人(4歳、4ヶ月)

	仕事の状況	保育など
1988(18) 1991(21)結婚	コミュニティーカレッジでビジネスのコースを取る。 その後、パデュー大学の様々な部署を回っている。 ハーフタイムの時もあったが、ほとんどがフルタイム。 出産の2日前まで勤める。	
1995(25) 第1子出産	7週間休む。 出産前にいた部署でフルタイム。	夫の上司の姉がやっている家庭保育所 2歳のとき、四ヶ月間キズコネクション 大学の保育所に空きができ、移る。
1999(29) 第2子出産	12週間休む。(産休、有給休暇、病気休暇などを組み合わせた)同じ部署でフルタイム	家庭保育所 上の子は引き続き大学の保育所。

8 ドナ 1962年生まれ 37歳 子ども1人(3歳)

	仕事の状況	保育など
1991年(29)結婚	フィジカルセラピスト、ニューラル精神科医などとして働いていた。	
1992(30)	精神科臨床研究者として勤務。フルタイム	
1996(34)出産	6週間の産休をとる。 その後、同じ職のパートタイムに。週3回 8ヶ月後、研究費を取った関係で、フルタイムに戻る。	家庭保育所
1997(35)	他州から夫の転職もあり、ラファイエットに移る 病院の臨床研究科のディレクターに。 火曜から金曜のフルタイム。Director of Clinical Research (full-time)	家庭保育所
1999(37)		子どもが3歳から 教会運営の保育所に

2 ジャネット 1957年生まれ(42歳) 子ども5人(18歳, 17歳, 11歳, 9歳, 6歳)

	仕事の状況	保育
1978(21)結婚		
1979(22)	ラフィエット学校協会の栄養教育コーディネータ (学校がある期間は毎日)	
1981(24) 第1子出産	出産後、3カ月の夏休み 後、フルタイムで働く	ベビーシッター
1982(25) 第2子出産	同職で、パートタイムに移行。平均週2, 3日。	ベビーシッター
1988(31) 第3子出産	同上	ベビーシッター、姉(週2回)
1990(33) 第4子出産	1学期間は週1日、2学期日は2日、次からは週3日に	家庭保育所
1993(36) 第5子出産	同上	家庭保育所
1996(39)	食品サービス課のディレクターに昇格。 フルタイム(8時半から5時まで)	
1998(41)	同上	末子5歳デイケア(教会運営)

9 クリスティーン 1962年生まれ 37歳 子ども4人(11歳, 10歳, 7歳, 5歳)

	仕事の状況	保育など
1984年(22)結婚		
	医療機関に看護婦として勤務	
1988年(26) 第1子出産	家にいる	
1989年(27) 第2子出産	家にいる	
1990年(28)	病院の看護婦 フルタイム(週4回)	デイケアに
1991年(29)	老人ホームの看護婦 パート(夜3時間および隔週末)	ベビーシッター
1992年(30) 第3子出産	数週間産休 もとのパート勤務に戻る	ベビーシッター
1997年(35)	リハビリテーション看護婦として別の病院に。 フルタイム	子ども就学。
1999年 第4子出産	6週間産休 もとのフルタイム勤務に戻る	家庭保育所 この3ヶ月は母親が週2回みてくれている

13 ケアレン(S) 1967年生まれ 32歳 子ども1人(3歳)

	仕事	保育
1992(25)結婚	Culinary Institute of America でシェフの資格取得。 結婚後、Grand Cayman Islands. でインターン。 シカゴ、テキサス、サンフランシスコなど転々とし、レスト ランやホテルに勤務(シェフ) 出産前までダラスのレストランではたらく。	
1996(29) 第1子出産	家にいる。	
1998 (31)	子ども15か月から夫とレストランをはじめ、フルタイム 勤務 (火木 9-4; 水 9-11; 金土 4:30-11:00、日月休)	子ども 14 カ月 週3回デイケアに。

6 カーラ 1960年生まれ39歳 子ども3人(21歳<前の結婚>, 19歳<前の結婚>, 3歳)

	仕事の状況	保育など
1977(17) 結婚	高校在籍	
1978(18) 第1子出産	高校在籍	高卒まで母親が子どもを見た。
1979	家にいる。	
1980(29) 第2子出産	家にいる。	
1986(26)	補助看護婦(病院)	第2子就学
1989(29) 離婚	スーパーで1年間働く	
1990(30)	コミュニティー・カレッジに通いパートでアルコール中毒患者のための施設や建設会社で働く。	
1993(33) 再婚		
1995(35)	フルタイムでアルコール中毒患者のための施設	
1996(36) 第3子出産	6週間の産休 もとの職に戻る。	第3子家庭保育所
1997(37)	同じ職場で外来患者の秘書に	

12 クリス(S)1967年生まれ32歳 子ども2人(10歳, 6歳)

	仕事の状況	保育など
1985(18) 結婚		
1989(22)	ベーカリーで働く。	
1989(22) 第1子出産	家にいる。 子どもが未熟児で、いくつかの問題があったため 1年間家にいた。	
1991(24)	ベーカリーで働きながら、大学で看護学を学ぶ。	ベビーシッター(同じアパートにすむ女友達) 家庭保育所
1993(26) 第2子出産	看護婦になる。 2人目の妊娠中、健康上の問題で4ヶ月休む。 出産後、2ヶ月休む。 病院で看護婦としてはたらく。フルタイム場合によってはパートタイムで。一時は、夜のシフトのこともあった。 正看護婦になるため、パートで学校に行く。	4歳からデイケア (職場のとなりにある。) デイケアからスクールバスで幼稚園に。
1999(32)	フルタイムで正看護婦 (日中のシフトの契約。いい話が他にあったが、シフトが変わるので、行かないことにした。)	子ども就学 夏には上の子にお金を払って下の子をみて もらう予定

3 ナンシー 1957年生まれ42歳 子ども4人(16歳, 16歳<双子>, 13歳養子, 9歳養子)

	仕事の状況	保育など
1982(25)	獣医としてクリニックでフルタイム勤務	
1983(26) 結婚 1983(26) 双子出産	2年間家にいる。	3ヶ月目から8ヶ月まで週3回家事の手伝いにきてもらった。
1985(28)	自宅で獣医業	2年間、自主学校に通う(何歳のとき?)
1987(30) 第3子養子	同上	
1990(33) 第4子養子	3年間就労せず。 子どもの為に自宅学校を始める コミュニティーサービスなどの活動	
1993(36)	クリニックでパートタイムの獣医。(木金、隔週の週末8時間から12時間) 第3子の自宅学校(午前のみ。)	第3子4年間自主学校に通った 第4子自主学校に通う。

7 ケアレン(A) 1961年生まれ 38歳 子ども(13歳、9歳、6歳、3歳、4ヶ月)

	仕事の状況	保育など
1984年(23)結婚	大学生	
1986(25) 第1子出産	大学生	
1986(25)	出産後2ヶ月で大学卒業 出産6ヶ月後 ナーサリーで教える(午前の2、3時間)	同じ年齢の子どもがいる友達がみてくれた
1987(26)	大学の保育スクールで午前だけ教える	18ヶ月から大学の保育スクール 5歳から幼稚園に
1990(29) 第2子出産	同上	18ヶ月から大学の保育スクール
1991(30)	大学院に入る	彼女の事中は夫がこどもをみた
1993(32) 第3子出産	大学院	彼女の事中は夫がこどもをみた 18ヶ月から大学の保育スクール
1994(33)	大学院修了 75%勤務で大学で教育実習生の指導(週4回9-3時)	
1996(35) 第4子出産	同上	ベビーシッター
1998(37)	同上・夫がはじめたお店を手伝うこともある。	子どもが2歳くらいからナニーをやとい、育児、家事の手伝い。
1999(38) 第5子出産	同上	ナニーは、一年つづいたが、インタビューの2週間まえ、やめた

10 ホーリー 1962年生まれ 37歳 子ども1人(2歳)

	仕事の状況	保育など
1992年(30)同様 1994年(32)結婚		
1996年(34)	大学の奨学金担当課ジュニアマネージャ(フルタイム)	
1997年(35)出産	3ヶ月休暇を取る やめたかったが、休暇の延長するからとあちらから言われた。	夫6週間休暇取る(一部有給)
1998年(36)	ジュニアマネージャ(パートタイム) 出産11ヶ月後、週10時間 出産14ヶ月後 週20時間 教会の日曜学校で教える	家庭保育所に数ヶ月 友達がベビーシットしてくれた 午前は大学の保育スクール 午後はすぐ近くの自主学校に

11 アン 1962年生まれ 37歳 子ども2人(7歳、5歳)

	仕事の状況	保育など
1990(28) 結婚	夫とコロラドに移る(夫大学院に) 車リースのマネージャーとしてはたらく	
1992(30) 第1子出産	8週間産休 同じ職、パートにかえる。週5回、午前中のみ。	ベビーシッターをやとう
1994(32) 第2子出産	12週間の産休を取る	
1994(32)	同じ職にもどったが、しばらくして職を変える。 車のセール職、パートだが長時間勤務。	職を変え、家事育児手伝いをやとう 下宿人に手伝ってもらう。 (いつも誰かに一部屋貸してある。) 上の子どもプリスクールに
1998(36)	ラフィエットに越してくる。3ヶ月家にいる。 夜、スーパーで働く	夜はたらく間、子どもは夫がみる 昼間は子どもたちは自主学校へ。
1999(37)	カーディーラーでパートで働く 8時から1時まで、3時半から5時まで	(仕事の空き時間に下の子どもをむかえ、上の子がもどるまで一緒にいる。)

15 エリザベス 1968年生まれ31歳 子ども2人(5、2)

	仕事の状況	保育など
1990年(22)結婚	大学の事務職 フルタイム	
1993年(25)	6週間産前休暇(体調の関係で)	
1994年(26) 第1子出産	産後6週間休暇(一部有給) もとの大学の事務職週30時間に変更	いとこにベビーシッター頼む 家庭保育所に
1997年(29) 第2子出産	2年間家にいる	
1999年(31)	もとの部署の事務職に。週20時間程度	労働時間によっては週2、3回近所の友達が ベビーシッター。

14 ティナ 1969年生まれ 30歳 子ども3人(7歳<前の結婚>、4歳<前の結婚>、20カ月)

	仕事	保育など
1988結婚(19) 1990(21)	助産婦の補助(病院や妊婦の自宅で。雇用されている のではなく、個人契約。)	
1992(23) 第1子出産	助産婦補助を続ける。	
1995(26) 第2子出産	助産婦補助を続ける。	
1996		第2子18カ月ベビーシッター
1997(28)離婚。	自主経営学校のコーディネーター。パートタイム (職をシェアしている。) 火、木、隔週金曜日。	第2子2歳自主学校に(勤め先)
1998(29) 第3子出産	自主経営学校のコーディネーター(継続)	第3子ベビーシッター

17 ジェシカ 1970年生まれ 29歳 子ども2人(9歳、2歳)

	仕事の状況	保育など
1989年(19)結婚	大学生	
1990年(20) 第1子出産	大学生	家庭保育所(無認可) 親、祖母の家にあずけた
1994年(24)	小学校教員	デイケア
1997年(27) 第2子出産	家にいる 引っ越す 大学院に入る	20ヶ月からデイケア

19 ニッキー 1974年生まれ 25歳 子ども1人(5歳)

	仕事の状況	保育など
1990年(16)	デパートの店員 フルタイム	
1994(20) 1994 出産	別のデパートに変わる。フルタイム 6週間産休(通常の賃金の3分の2が支払われた) 産休前の職に戻る。	ベビーシッター
1996(22)離婚	大学にはいる(パートタイム)	ベビーシッター 子どもが2歳から学内のデイケアに入る 4歳か学内の幼稚園に入る
1998(24)	フルタイムの学生になる	
1999(25)	フルタイムの学生 週に1時間ほど、学内ではたらく	

1 キム 1953年生まれ46歳 子ども2人(12歳, 10歳)

	仕事の状況	保育など
1984年(31)結婚	友人達と輸入関係の事業にかかわっていた。	
1986年(33)	妊娠7ヶ月のときから家に。 他の州に越してきた事もあった。妊娠中は働かない方がいいと思ったことも重なった。	育児クラブに入ったが、表面的で役に立たなかった。
1987(34) 第1子出産	家に	第1子モンテソーリ学校に週2, 3回朝に行った
1989(36) 第2子出産	家に	第2子3, 4歳から自主学校に行くようになる。
1994(42)	2, 3年本屋に勤める。	家事をやってくれる人をやどった。
1997(45)	週3, 4回、午前中自主学校でボランティア 毎日いっていたこともある。	第2子は現在も自主学校に。

4 ステファニー 1958年生まれ 41歳 1979年結婚 子ども2人(15歳, 11歳)

	仕事の状況	保育など
1979年(21)結婚	銀行につとめる。 のち、会社の経理。 大学で早期教育のコースを取る。	
1981年(23)	プリスクールの先生になる	
1984年(26) 第1子出産	家にいる	夫も自分も子どもは自分で育てたいと思った 子ども3歳くらいから一日数時間プリスクールに。
1988年(30) 第2子出産	家にいる	
1995年(37)	大学でさらに教育関係の授業をとる	第2子も3歳からプリスクールに一日数時間
1998年(40)	家にいる 代理の先生として時々働く。	

16 フランディー 1969年生まれ 30歳 子ども4人(5歳<三つ子>, 3歳)

	仕事の状況	保育など
1988年(19)結婚		
1989年(20)	薬局のテクニシャンとしてパート	
1991年(22)	夫のビジネス、フルタイムで働く	
1994年(25) 三つ子出産	家にいる 3ヶ月後から週3時間夫のビジネス。(経理)	夫の事務所に行く時はおば、母親が子どもをみる。
1996年(27) 第4子出産	同上	
1998年(29)	家にいる(夫が会社を売った。) コンピューターソフトのセールス関係の仕事の家ではじめる(ネット上)週6時間	末子はプリスクール。 上の子達は幼稚園

20 クリステイン 1978年生まれ 21歳 子ども2人(2歳, 1歳)

	仕事の状況	保育など
1994年(16)	老人ホームで看護婦補助としてはたらく	
1996年(18)	衣服製造工場ではたらく 夜11時から朝3時、朝7時などのシフト 妊娠中も働く。	
1997年(19) 第1子出産	家にいる	
1997年(19)	妊娠中写真現像ショップではたらく	母親が子どもをみた 必要に応じ義理の兄のガールフレンドがみる
1998年(20) 第2子出産	家にいる	

VI. アメリカの結婚、出生、就業動向に関する資料

1. 結婚に関するデータ (表1)

1998年のデータによると、18歳以上で未婚の人は男性27%、女性20%である。既婚で現在配偶者がいる割合は男女とも6割に満たない。年齢別にみると、女性の場合、どの年齢層でも「既婚で現在配偶者あり」の割合は7割未満である。男性は50歳以上で4分の3程度である。離婚し現在結婚していない人の割合も、年齢層に関わらず女性に多くなっており、45-54歳では2割に近い。

白人だけを見ると、55-74歳の男性の8割近くが「既婚・現在配偶者あり」であるのに対し女性で40-54歳で7割、55-64歳で7割弱、65-74歳では55%と男性に比べ、低くなっている。黒人のデータをみると、離婚が白人より多くなっており、45-54歳の女性の4分の1が離婚（かつ現在結婚していない）のカテゴリーに入っている。男性は、同じこの年齢層でも2割に満たない。黒人の18歳以上で未婚の割合は、男性41%、女性37%で、白人の未婚割合男性25%と女性18%よりかなり高い。

同棲

次に同棲の経験を見ると、25-39歳の女性の半分は同棲したことがある、と回答している。20代の女性で現在同棲しているのは10-11パーセントである。この表からもわかるように、未婚であっても、同棲関係も含めれば、20-24歳では半分以上、25-29歳ではx割程度、30-34歳では9割以上、そして40歳過ぎの女性の95%が、男性との同居の経験があることになる。全体でも、結婚したことがあるのは62.3%、同棲したことがあるのは41.1%と高い。属性別にみると、子どもを産んでいない人(42%)や15-19歳の女性(11.4%)のは低い割合である。(1995)

2. 出生動向 (表2、表3)

(1) 合計特殊出生率

1998年の合計特殊出生率(TFR)は2058.5で、1997年から1%増加している。アメリカのTFRは、1995年からわずかずつではあるが上昇傾向にある。10代の出産数は減少したが、20-44歳の女性の出産の増加がその減少より大きかったからと言える。TFRは、1971年の2265.5以来、アメリカの人口置換水準2.100を下回ったままである。

TFRはエスニックグループによっても違っている。人口置換水準を上回っているのはメキシコ系(3198.0)、非ヒスパニックの黒人(2235.5)とプエトリコ人(2268.0)、人口置換水準を下回っているのはアメリカンインディアン(2090.5)、アジア・パシフィック系

(1867.5)、非ヒスパニック白人、そしてキューバ系である。1998年時点でのアジア・パシフィック系のTFRは1986,7年の1836.0に次ぐ最低値である。

(2) 出生数・粗出生率

(a) アメリカ合衆国の出生数は1997年から1998年にかけて3,880,894から3,941,553に増加(2%)した。近年で最も出生数が多かった年は1990年で、1997年までは減少していた。それ以来の増加である。この増加は、全ての人種・エスニックグループでみられた。

粗出生率も、1990年(16.7)から1997年にかけて減少していたが、1998年には、前年の14.5から14.6に増加した。総出生率も同様に、1990年以来の増加をみせ65.6である。人種・エスニックグループ別に見ると、非ヒスパニック白人は、57.7であるのに対し、非ヒスパニック黒人は73.0であった。アジア・パシフィック系は低く、64.0(前年より3%の減少)、メキシコ系は高く、112.1であった。出生率の全体の増加は非ヒスパニック白人と黒人の増加によるものと言える。7年間の低下傾向は、少なくとも一時的にはなくなったと言える。ヒスパニックの出生率は、ヒスパニックデータを取るようになった1989年以来一番低くなった。

(b) 年齢別パターン

・10-14歳の女性による出生は、1994年以来ずっと下がり続け、1998年では1000人あたり1.0で最も低くなった。15-19歳については、一番高かった1991年の62.1よりも18%低い51.5であった。90年代の10代による出産の減少は1986年から1991年の増加をほぼ逆転させたと言える。15-17歳、18-19歳と分けて見ても、減少の傾向は同じである。

・20代の出産

20-24歳の出産は1%上昇し1000人あたり111.2になった。25-29歳の出産も2%上昇し115.9になった。過去20年間、この年齢層の出産は安定している。20代の出産は、メキシコ系の女性が一番高い。20-24歳では197.6で、アジア系女性の出産の3倍に(68.8)に相当する。

・30代の出産

1996年には2.3%上昇し、さらに1998年にも上昇した。30-34歳では1000人中87.4、35-39歳では37.4であり、他の年齢層とは違って、1970年代後半から上昇し続けている。30-34歳の女性の出生率は高いが、この年齢層の女性の人口が5%減少したため、出生数の増加はわずかである。35-39歳では1000人あたり37.4に増加した。これは1978年の19.1の倍にあたり、1967年の38.3について高い率である。

40-44歳の出生率も上昇し、7.3になった。1970年に次いで高い数値である。

(c) 属性別の出生パターン (表4)

次に1995年のCURRENT POPULATION SURVEYデータで人種・エスニックグループだけではなく、他の属性別に出生の状況を見てみる。女性1000人あたりの出生率は黒人に一番多くなっている。しかし、30歳以上だけを見ると、アジア・パシフィック系が一番多くなっている(59.2)。15-29歳と30-44歳どちらの年齢層でも「既婚・現在夫がいる」グループの出生率が一番高くなっている。就労状況による違いは、労働市場外、つまり就労しておらず、失業中でもないグループの出生率が一番高い。収入レベル別では、30歳以上に限ると、収入が多い方が(3万5千ドル以上)出生率が高い。教育レベルを見ると、15-29歳では高卒のグループの千人中112.5人が出産しており、圧倒的に高くなっている。15-29歳で収入1万ドル以下のグループの出産した割合は132.7と高い。

表1 年齢別、性別、人種およびヒスパニック系別の婚姻地位 (15歳以上, 1998年3月)

	全体 15歳 以上	15- 17 歳	18 & 19 歳	20- 24 歳	25- 29 歳	30- 34 歳	35- 39 歳	40- 44 歳	45- 54 歳	55- 64 歳	65- 74 歳	75- 84 歳	85歳 以上	18歳 以上	65歳 以上
全人種															
男性															
未婚	31.2	99.3	97.3	83.4	51.0	29.2	21.6	15.6	8.9	5.4	4.1	3.2	4.5	26.9	3.8
既婚、配偶者有	54.7	.1	1.6	13.4	41.4	58.8	62.4	66.7	72.4	76.4	76.9	71.0	45.6	58.2	72.6
既婚、配偶者無	3.3	.4	.8	1.7	3.2	4.2	4.8	4.3	3.9	3.8	2.3	2.5	4.3	3.5	2.5
離別	2.0	.3	.5	.9	1.8	2.3	3.4	3.3	2.4	2.1	1.1	.8	1.0	2.1	1.0
その他	1.3	.1	.3	.8	1.5	1.9	1.4	1.0	1.5	1.6	1.2	1.6	3.4	1.4	1.5
死別	2.5	-	-	-	.1	.2	.4	.5	.9	2.6	8.8	19.6	42.0	2.7	14.9
離婚	8.2	.1	.3	1.5	4.2	7.7	10.7	13.0	13.9	11.9	7.8	3.7	3.6	8.8	6.1
女性															
未婚	24.7	96.4	94.3	70.3	38.6	21.8	14.3	9.9	7.2	4.6	4.3	5.0	5.5	20.5	4.7
既婚、配偶者有	51.1	.9	4.8	24.3	51.4	63.5	68.0	67.5	66.2	64.4	52.4	32.1	10.9	54.0	40.7
既婚、配偶者無	3.7	.5	.8	2.7	4.1	5.1	5.5	5.3	4.6	3.4	2.4	1.9	2.5	3.9	2.2
離別	2.7	.3	.3	1.9	3.2	3.9	4.6	4.1	3.4	2.4	1.3	.5	.3	2.8	.9
その他	1.0	.1	.5	.8	.9	1.2	.9	1.2	1.2	1.0	1.1	1.4	2.1	1.1	1.3
死別	10.2	-	-	.2	.4	.5	1.2	1.5	4.0	13.2	31.9	55.6	77.4	10.8	45.2
離婚	10.3	.3	.1	2.5	5.5	9.4	13.0	15.8	18.1	14.4	8.9	5.4	3.7	10.8	7.1
白人															
男性															
未婚	29.1	99.4	97.3	81.6	47.7	26.8	19.1	13.7	8.4	4.9	4.0	3.1	4.3	24.8	3.7
既婚、配偶者有	57.2	.1	1.9	14.6	44.3	61.7	65.1	68.7	73.6	78.8	78.6	72.4	48.4	60.7	74.3
既婚、配偶者無	3.0	.3	.6	1.9	3.3	3.6	4.3	3.9	3.6	2.8	2.0	2.2	3.9	3.1	2.2
離別	1.8	.3	.5	1.0	1.8	2.1	3.1	2.9	2.1	1.5	1.1	.8	.9	1.9	1.0
その他	1.2	.1	.1	.9	1.5	1.5	1.2	1.0	1.5	1.3	1.0	1.4	3.1	1.2	1.3
死別	2.5	.1	-	-	.1	.2	.4	.5	.8	2.0	8.3	18.9	39.9	2.6	14.1
離婚	8.3	.1	.1	1.8	4.5	7.7	11.0	13.2	13.6	11.4	7.1	3.4	3.4	8.7	5.6
女性															
未婚	21.9	98.1	93.5	67.0	34.3	17.0	10.9	7.6	6.1	3.9	4.1	4.7	5.9	17.6	4.5
既婚、配偶者有	54.4	.9	5.4	27.0	55.7	68.3	70.8	71.1	69.3	67.6	55.1	33.1	11.1	58.2	42.3
既婚、配偶者無	3.1	.6	.9	2.8	3.6	4.5	4.4	4.4	3.6	2.5	1.8	1.7	2.5	3.2	1.8
離別	2.2	.4	.3	2.0	2.8	3.5	3.7	3.4	2.7	1.8	.9	.4	.4	2.3	.7
その他	.9	.2	.6	.8	.8	1.0	.7	1.0	.9	.8	.9	1.2	2.1	.9	1.2
死別	10.4	-	-	.2	.4	.5	1.0	1.2	3.6	12.2	30.3	55.2	77.0	11.0	44.5
離婚	10.2	.3	.2	3.0	6.0	9.7	12.8	15.7	17.4	13.8	8.7	5.2	3.6	10.7	6.9
黒人															
男性															
未婚	46.0	99.0	97.0	91.9	64.4	43.2	39.7	32.3	15.5	10.8	5.4	5.5	5.7	40.9	5.5
既婚、配偶者有	36.2	.2	.2	7.0	30.0	41.0	43.9	46.2	56.7	53.7	60.2	50.1	23.2	39.7	53.4
既婚、配偶者無	5.2	.8	1.6	1.2	2.7	8.3	7.5	6.5	7.2	12.4	3.6	3.1	3.5	5.6	3.5
離別	3.6	.8	.7	.6	2.1	3.1	5.2	5.4	5.6	8.1	2.2	1.6	2.0	3.9	2.0
その他	1.6	-	.9	.6	.5	3.3	2.3	1.1	1.6	4.2	1.4	1.5	1.4	1.8	1.4
死別	3.4	-	-	-	-	.3	.2	.7	2.1	7.3	14.7	32.3	61.9	3.7	24.7
離婚	9.2	-	1.2	-	2.9	9.3	8.7	14.2	18.6	15.9	16.1	9.0	5.7	10.1	13.0
女性															
未婚	41.5	99.3	97.8	85.1	59.4	47.2	34.3	25.4	15.2	10.8	6.6	9.2	2.1	37.3	6.9
既婚、配偶者有	28.9	.5	1.7	12.1	29.4	35.0	35.0	42.2	41.2	37.1	29.7	19.8	7.7	31.0	24.3
既婚、配偶者無	7.4	-	.5	1.7	7.1	8.9	12.4	10.4	10.9	9.1	6.2	4.0	1.4	8.0	5.0
離別	5.9	-	.5	.9	5.9	7.0	10.7	8.0	8.8	7.4	5.1	.7	-	6.3	3.2
その他	1.5	-	-	.8	1.3	2.0	1.7	2.4	2.0	1.7	1.1	3.3	1.4	1.6	1.8
死別	10.0	-	-	.2	.1	.7	2.4	3.1	6.2	21.0	46.4	59.8	83.2	10.7	54.4
離婚	12.2	.2	-	1.0	3.9	8.1	15.9	19.0	26.5	21.9	11.0	7.2	5.5	13.1	9.2

表1 (続き): 年齢別、性別、人種およびヒスパニック系別の婚姻地位 (15歳以上, 1998年3月)

Subject	Total, 15 歳 & over	15- 17 歳	18 & 19 歳	20- 24 歳	25- 29 歳	30- 34 歳	35- 39 歳	40- 44 歳	45- 54 歳	55- 64 歳	65- 74 歳	75- 84 歳	85歳 & over	Total, 18 歳 & over	Total, 65 歳 & over
ヒスパニック															
男性															
未婚	39.9	99.3	95.4	76.4	49.4	27.4	26.8	12.7	12.0	5.7	5.4	2.1	(B)	34.8	4.5
既婚、配偶者有	46.1	-	3.7	18.3	42.1	58.9	55.5	66.9	65.2	71.6	71.0	65.9	(B)	50.1	67.0
既婚、配偶者無	6.8	.3	.9	4.9	6.5	8.0	8.2	7.9	10.6	10.3	6.4	8.3	(B)	7.4	6.7
離別	3.0	.3	.3	1.9	2.1	3.0	4.7	4.1	4.1	5.1	4.1	4.6	(B)	3.3	4.3
その他	3.8	-	.6	2.9	4.4	5.0	3.6	3.9	6.5	5.2	2.3	1.7	(B)	4.1	2.4
死別	1.2	-	-	-	.1	-	.6	.2	.5	2.3	8.5	18.3	(B)	1.3	14.0
離婚	5.9	.4	-	.4	1.9	5.6	8.9	12.3	11.7	10.1	8.6	7.5	(B)	6.4	7.8
女性															
未婚	29.3	95.9	86.6	60.7	32.9	19.5	13.2	8.4	8.1	8.7	6.0	3.9	(B)	24.3	5.5
既婚、配偶者有	49.3	2.9	10.9	31.6	57.7	63.8	65.5	65.1	61.6	56.2	44.0	29.4	(B)	52.8	37.0
既婚、配偶者無	7.1	.8	2.3	5.4	5.3	8.2	8.4	10.6	10.0	9.2	6.5	4.6	(B)	7.5	5.7
離別	5.2	.6	.8	3.9	3.6	6.6	6.7	7.9	7.7	6.9	4.9	1.5	(B)	5.6	3.7
その他	1.8	.2	1.5	1.5	1.7	1.6	1.7	2.8	2.3	2.3	1.6	3.1	(B)	1.9	2.1
死別	5.9	.3	-	.4	.6	.9	1.4	1.6	5.5	10.6	31.0	54.6	(B)	6.3	41.7
離婚	8.4	.1	.3	1.9	3.5	7.5	11.5	14.2	14.7	15.4	12.5	7.5	(B)	9.1	10.1
白人非ヒスパニック															
男性															
未婚	27.6	99.3	97.7	82.9	47.4	26.8	18.0	13.9	8.1	4.8	3.9	3.2	4.2	23.5	3.7
既婚、配偶者有	58.7	.1	1.5	13.7	44.8	62.1	66.6	8.9	74.4	79.4	79.0	72.7	49.1	62.1	74.7
既婚、配偶者無	2.4	.4	.6	1.2	2.6	2.7	3.7	3.4	2.9	2.2	1.8	2.0	3.5	2.5	2.0
離別	1.6	.3	.6	.7	1.8	2.0	2.9	2.7	2.0	1.2	.9	.8	.6	1.7	.8
その他	.8	.1	.1	.4	.8	.7	.8	.6	.9	.9	.9	1.4	2.9	.8	1.2
死別	2.6	.1	-	-	.1	.2	.3	.5	.8	2.0	8.2	18.9	39.7	2.8	14.1
離婚	8.8	.1	.1	2.2	5.1	8.1	11.4	13.4	13.8	11.6	7.1	3.2	3.5	9.1	5.5
女性															
未婚	21.1	98.6	95.0	68.5	34.8	16.8	10.7	7.5	5.9	3.5	4.0	4.8	5.8	17.1	4.5
既婚、配偶者有	54.9	.6	4.2	25.9	55.1	68.7	71.4	71.7	70.0	68.6	55.8	33.3	11.2	57.6	42.6
既婚、配偶者無	2.6	.8	.6	2.3	3.3	3.9	3.8	3.6	3.0	1.9	1.5	1.6	2.4	2.7	1.6
離別	1.9	.4	.2	1.7	2.6	3.0	3.3	2.9	2.2	1.3	.6	.4	.3	1.9	.5
その他	.8	.2	.4	.6	.7	.9	.6	.8	.8	.6	.9	1.2	2.1	.8	1.1
死別	11.0	-	-	.1	.4	.4	1.0	1.2	3.4	12.4	30.3	55.2	76.8	11.6	44.6
離婚	10.4	.3	.1	3.1	6.5	10.2	13.0	15.9	17.6	13.7	8.4	5.1	3.7	10.9	6.7

(Marital Status of Persons 15歳 and Over, by Age, Sex, Race, Hispanic Origin, Metropolitan Residence, and Region: March 1998, in percentages (United States)より一部抜粋。)

表2：合計特殊出生率と母親の年齢別における出生の割合（1970-96 アメリカ合衆国）、
母親の年齢・人種別の割合（1980-96 アメリカ合衆国）

年次・ 人種	合計特殊 出生率	(母親の年齢)									
		10- 14歳	15-19歳			20- 24歳	25- 29歳	30- 34歳	35- 39歳	40- 44歳	45- 49歳
			合計	15-17 歳	18- 19歳						
全体											
1998	2,058.5	1.0	51.1	30.4	82.0	11.2	115.9	87.4	37.4	7.3	0.4
1997	2,032.5	1.1	52.3	32.1	83.6	110.4	113.8	85.3	36.1	7.1	0.4
1996	2,027.0	1.2	54.4	33.8	86.0	110.4	113.1	83.9	35.3	6.8	0.3
1995	2,019.0	1.3	56.8	36.0	89.1	109.8	112.2	82.5	34.3	6.6	0.3
1994	2,036.0	1.4	58.9	37.6	91.5	111.1	113.9	81.5	33.7	6.4	0.3
1993	2,046.0	1.4	59.6	37.8	92.1	112.6	115.5	80.8	32.9	6.1	0.3
1992	2,065.0	1.4	60.7	37.8	94.5	114.6	117.4	80.2	32.5	5.9	0.3
1991	2,073.0	1.4	62.1	38.7	94.4	115.7	118.2	79.5	32.0	5.5	0.2
1990	2,081.0	1.4	59.9	37.5	88.6	116.5	120.2	80.8	31.7	5.5	0.2
1989	2,014.0	1.4	57.3	36.4	84.2	113.8	117.6	77.4	29.9	4.2	0.2
1988	1,934.0	1.3	53.0	33.6	79.9	110.2	114.4	74.8	28.1	4.8	0.2
1987	1,872.0	1.3	50.6	31.7	78.5	107.9	111.6	72.1	26.3	4.4	0.2
1986	1,837.5	1.3	50.2	30.5	79.6	107.4	109.8	70.1	24.4	4.1	0.2
1985	1,844.0	1.2	51.0	31.0	79.6	108.3	111.0	69.1	24.0	4.0	0.2
1984 ²	1,806.5	1.2	50.6	31.0	77.4	106.8	108.7	67.0	22.9	3.9	0.2
1983 ²	1,799.0	1.1	51.4	31.8	77.4	107.8	108.5	64.9	22.0	3.9	0.2
1982 ²	1,827.5	1.1	52.4	32.3	79.4	111.6	111.0	64.1	21.2	3.9	0.2
1981 ²	1,812.0	1.1	52.2	32.0	80.0	112.2	111.5	61.4	20.0	3.8	0.2
1980 ²	1,839.5	1.1	53.0	32.5	82.1	115.1	112.9	61.9	19.8	3.9	0.2
1979 ²	1,808.0	1.2	52.3	32.3	81.3	112.8	111.4	60.3	19.5	3.9	0.2
1978 ²	1,760.0	1.2	51.5	32.2	79.8	109.9	108.5	57.8	19.0	3.9	0.2
1977 ²	1,789.5	1.2	52.8	33.9	80.9	112.9	111.0	56.4	19.2	4.2	0.2
1976 ²	1,738.0	1.2	52.8	34.1	80.5	110.3	106.2	53.6	19.0	4.3	0.2
1975 ²	1,774.0	1.3	55.6	36.1	85.0	113.0	108.2	52.3	19.5	4.6	0.3
1974 ²	1,835.0	1.2	57.5	37.3	88.7	117.7	111.5	53.8	20.2	4.8	0.3
1973 ²	1,879.0	1.2	59.3	38.5	91.2	119.7	112.2	55.6	22.1	5.4	0.3
1972 ²	2,010.0	1.2	61.7	39.0	96.9	130.2	117.7	59.8	24.8	6.2	0.4
1971 ³	2,266.5	1.1	64.5	38.2	105.3	150.1	134.1	67.3	28.7	7.1	0.4
1970 ³	2,480.0	1.2	68.3	38.8	114.7	167.8	145.1	73.3	31.7	8.1	0.5
ホワイト											
1998	2,041.0	0.6	45.5	25.9	74.6	107.	119.1	90.5	37.8	7.2	0.4
1997	2,009.0	0.7	46.3	27.1	75.9	106.7	116.6	87.8	36.4	6.9	0.4
1996	2,005.5	0.8	48.1	28.4	78.4	107.2	116.1	86.3	35.6	6.7	0.3
1995	1,989.0	0.8	50.1	30.0	81.2	106.3	114.8	84.6	34.5	6.4	0.3
1994	1,985.0	0.8	51.1	30.7	82.1	106.2	115.5	83.2	33.7	6.2	0.3
1993	1,982.0	0.8	51.1	30.3	82.1	106.9	116.6	82.1	32.7	5.9	0.3
1992	1,993.5	0.8	51.8	30.1	83.8	108.2	118.4	81.4	32.2	5.7	0.2
1991	1,995.5	0.8	52.8	30.7	83.5	109.0	118.8	80.5	31.8	5.2	0.2
1990	2,003.0	0.7	50.8	29.5	78.0	109.8	120.7	81.7	31.5	5.2	0.2
1989	1,931.0	0.7	47.9	28.1	72.9	106.9	117.8	78.1	29.7	4.9	0.2
1988	1,856.5	0.6	44.4	26.0	69.6	103.7	114.8	75.4	27.7	4.5	0.2
1987	1,804.5	0.6	42.5	24.6	68.9	102.3	112.3	73.0	25.9	4.1	0.2
1986	1,776.0	0.6	42.3	23.8	70.1	102.7	110.8	70.9	23.9	3.8	0.2
1985	1,787.0	0.6	43.3	24.4	70.4	104.1	112.3	69.9	23.3	3.7	0.2
1984 ²	1,748.5	0.6	42.9	24.3	68.4	102.7	109.8	67.7	22.2	3.6	0.2
1983 ²	1,740.5	0.6	43.9	25.0	68.8	103.8	109.4	65.3	21.3	3.6	0.2
1982 ²	1,767.0	0.6	45.0	25.5	70.8	107.7	111.9	64.0	20.4	3.6	0.2
1981 ²	1,748.0	0.5	44.9	25.4	71.5	108.3	112.3	61.0	19.0	3.4	0.2
1980 ²	1,773.0	0.6	45.4	25.5	73.2	111.1	113.8	61.2	18.8	3.5	0.2

Table 4. Total fertility rates and birth rates by age of mother: United States, 1970-96, and by age and race of mother: United States, 1980-96. Monthly vital Statistics Report Vol. 46, No. 11 (S) June 30, 1998.

表2 (続き)

年・ 人種	合計 出生率	(母親の年齢)									
		10- 14歳	15-19歳			20- 24歳	25- 29歳	30- 34歳	35- 39歳	40- 44歳	45- 49歳
ブラック											
1998	2,171.0	2.9	85.4	56.8	126.9	141.9	101.8	64.7	30.5	6.7	0.3
1997	2,154.0	3.3	88.2	60.8	130.1	139.0	99.5	64.3	29.7	6.5	0.3
1996	2,144.0	3.6	91.4	64.7	132.5	136.8	98.2	63.3	29.1	6.1	0.3
1995	2,175.0	4.2	96.1	69.7	137.1	137.1	98.6	64.0	28.7	6.0	0.3
1994	2,300.0	4.6	104.5	76.3	148.3	146.0	104.0	65.8	28.9	5.9	0.3
1993	2,384.5	4.6	108.6	79.8	151.9	152.6	108.4	67.3	29.2	5.9	0.3
1992	2,442.0	4.7	112.4	81.3	157.9	158.0	111.2	67.5	28.8	5.6	0.2
1991	2,480.0	4.8	115.5	84.1	158.6	160.9	113.1	67.7	28.3	5.5	0.2
1990	2,480.0	4.9	112.8	82.3	152.9	160.2	115.5	68.7	28.1	5.5	0.3
1989	2,432.5	5.1	111.5	81.9	151.9	156.8	114.4	66.3	26.7	5.4	0.3
1988	2,298.0	4.9	102.7	75.7	142.7	149.7	108.2	63.1	25.6	5.1	0.3
1987	2,198.0	4.8	97.6	72.1	135.8	142.7	104.3	60.6	24.6	4.8	0.2
1986	2,135.5	4.7	95.8	69.3	135.1	137.3	101.1	59.3	23.8	4.8	0.3
1985	2,109.0	4.5	95.4	69.3	132.4	135.0	100.2	57.9	23.9	4.6	0.3
1984 ²	2,070.5	4.4	94.1	69.2	128.1	132.2	98.4	56.7	23.3	4.8	0.2
1983 ²	2,066.0	4.1	93.9	69.6	127.1	131.9	98.4	56.2	23.3	5.1	0.3
1982 ²	2,106.5	4.0	94.3	69.7	128.9	135.4	101.3	57.5	23.3	5.1	0.4
1981 ²	2,117.5	4.0	94.5	69.3	131.0	136.5	102.3	57.4	23.1	5.4	0.3
1980 ²	2,176.5	4.3	97.8	72.5	135.1	140.0	103.9	59.9	23.5	5.6	0.3
アメリカンインディアン ⁴											
1998	2,090.5	1.6	72.1	44.4	118.4	139.3	102.2	66.3	30.2	6.4	*
1997	2,047.5	1.7	71.8	45.3	117.6	134.9	100.8	64.2	29.3	6.4	0.4
1996	2,030.0	1.7	73.9	46.4	122.3	133.9	98.5	63.2	28.5	6.3	*
1995	2,033.5	1.8	78.0	47.8	130.7	132.5	98.4	62.2	27.7	6.1	*
1994	2,080.0	1.9	80.8	51.3	130.3	134.2	104.1	61.2	27.5	5.9	0.4
1993	2,141.0	1.4	83.1	53.7	130.7	139.8	107.6	62.8	27.6	5.9	*
1992	2,190.0	1.6	84.4	53.8	132.6	145.5	109.4	63.0	28.0	6.1	*
1991	2,169.0	1.6	85.0	52.7	134.3	144.9	106.9	61.9	27.2	5.9	0.4
1990	2,183.0	1.6	81.1	48.5	129.3	148.7	110.3	61.5	27.5	5.9	*
1989	2,247.0	1.5	82.7	51.6	128.9	152.4	114.2	64.8	27.4	6.4	*
1988	2,153.5	1.7	77.5	49.7	121.1	145.2	110.9	64.5	25.6	5.3	*
1987	2,099.0	1.7	77.2	48.8	122.2	140.0	107.9	63.0	24.4	5.6	*
1986	2,082.0	1.8	78.1	48.7	125.3	138.8	107.9	60.7	23.8	5.3	*
1985	2,128.0	1.7	79.2	47.7	124.1	139.1	109.6	62.6	27.4	6.0	*
1984 ²	2,136.0	1.7	81.5	50.7	124.7	142.4	109.2	60.5	26.3	5.6	*
1983 ²	2,180.5	1.9	84.2	55.2	121.4	145.5	113.7	58.9	25.5	6.4	*
1982 ²	2,213.0	1.4	83.5	52.6	127.6	148.1	115.8	60.9	26.9	6.0	*
1981 ²	2,090.0	2.1	78.4	49.7	121.5	141.2	105.6	58.9	25.2	6.6	*
1980 ²	2,162.5	1.9	82.2	51.5	129.5	143.7	106.6	61.8	28.1	8.2	*
アジア・太平洋諸島系											
1998	1,867.5	0.4	23.1	13.8	38.3	68.8	110.4	105.1	52.8	12.0	0.9
1997	1,925.5	0.5	23.7	14.3	39.3	70.5	113.2	110.3	54.1	11.9	0.9
1996	1,907.5	0.6	24.6	14.9	40.4	70.7	111.2	109.2	52.2	12.2	0.8
1995	1,924.0	0.7	26.1	15.4	43.4	72.4	113.4	106.9	52.4	12.1	0.8
1994	1,943.0	0.7	27.1	16.1	44.1	73.1	118.6	105.2	51.3	11.6	1.0
1993	1,935.5	0.6	27.0	16.0	43.3	73.3	119.9	103.9	50.2	11.3	0.9
1992	1,942.0	0.7	26.6	15.2	43.1	74.6	121.0	103.0	50.6	11.0	0.9
1991	1,956.0	0.8	27.4	16.1	43.1	75.2	123.2	103.3	49.0	11.2	1.1
1990	2,002.5	0.7	26.4	16.0	40.2	79.2	126.3	106.5	49.6	10.7	1.1
1989	1,947.5	0.6	25.6	15.0	40.4	78.8	124.0	102.3	47.0	10.2	1.0
1988	1,983.5	0.6	24.2	13.6	39.6	80.7	128.0	104.4	47.5	10.3	1.0
1987	1,886.0	0.6	22.4	12.6	37.0	79.7	122.7	97.0	44.2	9.5	1.1
1986	1,836.0	0.5	22.8	12.1	38.8	79.2	119.9	92.6	41.9	9.3	1.0
1985	1,885.0	0.4	23.8	12.5	40.8	83.6	123.0	93.6	42.7	8.7	1.2
1984 ²	1,892.0	0.5	24.2	12.6	40.7	86.7	124.3	92.4	40.6	8.7	1.0
1983 ²	1,943.5	0.5	26.1	12.9	44.5	94.0	126.2	93.3	39.4	8.2	1.0
1982 ²	2,015.5	0.4	29.4	14.0	50.8	98.9	130.9	94.4	39.2	8.8	1.1
1981 ²	1,976.0	0.3	28.5	13.4	49.5	96.4	129.1	93.4	38.0	8.6	0.9
1980 ²	1,953.5	0.3	26.2	12.0	46.2	93.3	127.4	96.0	38.3	8.5	0.7

1. 分けて標記されていない人種の出生も含まれる。
2. 一部の州は100%サンプル、他の州は50%サンプルによる。
3. 50%サンプルによる
4. アルエットおよびエスキモーを含む。

Table 4. Total fertility rates and birth rates by age of mother: United States, 1987-98, and by age and race of mother: United States, 1980-98 (National Vital Statistics Report, Vol. 48, No. 3, March 28, 2000)

表3： 合計特殊出生率、出生率、年齢別出生率（人種・ヒスパニック系別（1989-1998年））

年次 ・ 人種	合計特 殊出生 率	出生 率 ¹	(母親の年齢)												
			(15~19歳)							20~ 24歳	25~ 29歳	30~ 34歳	35~ 39歳	40~ 44歳	45~ 49歳 ²
			10~ 14歳	合計	15~ 17歳	18~ 19歳									
全人種															
1998	2,058.5	65.6	1.0	51.1	30.4	82.0	111.2	115.9	87.4	37.4	7.3	0.4			
1997	2,032.5	65.0	1.1	52.3	32.1	83.6	110.4	113.8	85.3	36.1	7.1	0.4			
1996	2,027.0	65.3	1.2	54.4	33.8	86.0	110.4	113.1	83.9	35.3	6.8	0.3			
1995	2,019.0	65.6	1.3	56.8	36.0	89.1	109.8	112.2	82.5	34.3	6.6	0.3			
1994	2,036.0	66.7	1.4	58.9	37.6	91.5	111.1	113.9	81.5	33.7	6.4	0.3			
1993	2,046.0	67.6	1.4	59.6	37.8	92.1	112.6	115.5	80.8	32.9	6.1	0.3			
1992	2,065.0	68.9	1.4	60.7	37.8	94.5	114.6	117.4	80.2	32.5	5.9	0.3			
1991	2,073.0	69.6	1.4	62.1	38.7	94.4	115.7	118.2	79.5	32.0	5.5	0.2			
1990	2,081.0	70.9	1.4	59.9	37.5	88.6	116.5	120.2	80.8	31.7	5.5	0.2			
1989	2,014.0	69.2	1.4	57.3	36.4	84.2	113.8	117.6	77.4	29.9	5.2	0.2			
ヒスパニック															
合計															
1998	2,947.5	101.1	2.1	93.6	62.3	140.1	178.4	160.2	98.9	44.9	10.8	0.6			
1997	2,999.5	102.8	2.3	97.4	66.3	144.3	184.2	161.7	97.9	45.0	10.8	0.6			
1996	3,047.5	104.9	2.6	101.8	69.0	151.1	189.5	161.0	98.1	45.1	10.8	0.6			
1995	3,019.5	105.0	2.7	106.7	72.9	157.9	188.5	153.8	95.9	44.9	10.8	0.6			
1994	3,014.0	105.6	2.7	107.7	74.0	158.0	188.2	153.2	95.4	44.3	10.7	0.6			
1993	3,020.5	106.9	2.7	106.8	71.7	159.1	188.3	154.0	96.4	44.7	10.6	0.6			
1992 ²	3,043.0	108.6	2.6	107.1	71.4	159.7	190.6	154.4	96.8	45.6	10.9	0.6			
1991 ²	3,002.5	108.1	2.4	106.7	70.6	158.5	186.3	152.8	96.1	44.9	10.7	0.6			
1990 ³	2,959.5	107.7	2.4	100.3	65.9	147.7	181.0	153.0	98.3	45.3	10.9	0.7			
1989 ⁴	2,903.5	104.9	2.3	100.8	---	---	184.4	146.6	92.1	43.5	10.4	0.6			
メキシカン															
1998	3,198.0	112.1	2.2	102.7	67.0	159.1	197.6	173.5	103.7	48.4	10.9	0.6			
1997	3,307.5	116.6	2.5	112.4	77.3	165.1	204.9	176.3	104.2	49.0	11.6	0.6			
1996	3,353.5	119.3	2.8	120.7	83.4	174.3	206.3	176.9	103.7	47.6	12.0	0.7			
1995	3,273.5	117.0	2.8	124.6	84.4	185.3	208.9	160.5	98.5	46.8	11.9	0.7			
1994	3,211.5	115.4	2.8	116.2	78.0	175.0	202.6	165.2	96.9	46.2	11.7	0.7			
1993	3,174.0	114.8	2.6	108.7	71.6	164.9	196.6	168.2	100.5	46.1	11.3	0.8			
1992 ²	3,196.5	116.0	2.5	108.8	---	---	202.3	166.3	99.1	47.7	11.8	0.8			
1991 ²	3,317.5	121.6	2.6	117.3	75.9	178.4	209.9	168.2	103.3	49.1	12.3	0.8			
1990 ³	3,214.0	118.9	2.5	108.0	69.7	162.2	200.3	165.3	104.4	49.1	12.4	0.8			
1989 ⁴	2,916.5	106.6	2.0	94.5	---	---	184.3	153.7	96.1	41.0	11.1	0.6			
アメリカ															
1998	2,268.0	75.5	1.9	81.2	55.1	120.7	164.2	104.4	67.6	26.7	7.2	0.4			
1997	2,164.0	71.7	1.8	74.9	48.9	120.0	154.0	109.3	59.1	27.0	6.2	0.5			
1996	2,163.0	71.3	2.1	82.3	52.2	143.2	148.8	109.4	58.3	25.9	5.6	*			
1995	2,245.5	75.7	3.0	89.0	61.2	139.2	151.5	107.2	64.8	27.7	5.6	0.3			
1994	2,490.0	81.9	3.2	106.0	72.8	168.4	181.0	111.7	62.3	28.0	5.6	0.2			
1993	2,523.5	82.5	3.1	110.0	73.4	181.0	193.1	108.4	56.3	27.1	6.2	0.5			
1992 ²	2,644.5	89.9	3.5	110.4	---	---	204.9	106.6	66.7	30.0	6.5	0.3			
1991 ²	2,276.0	80.9	2.5	102.7	75.2	143.0	149.4	107.5	61.4	25.7	5.7	0.3			
1990 ³	2,301.0	82.9	2.9	101.6	71.6	141.6	150.1	109.9	62.8	26.2	6.2	0.5			
1989 ⁴	2,421.0	86.6	3.8	112.7	---	---	171.0	98.0	65.2	26.9	6.3	0.3			

Table 9. Total fertility rates, fertility rates, and birth rates by age and Hispanic origin of mother, and by race for mothers of non-Hispanic origin: United States, 1980-98 (National Vital Statistics Report, Vol. 48, No. 3, March 28, 2000)